



昭和30年頃

地方の可能性

「地方創生」が声高に叫ばれている日本ですが、当園が存在する和歌山県も、ご多分にもれず、人口がどんどん減少している状況です。

その中でも、地方の可能性の一つとして

「六次産業化」という言葉を、耳にされる方もおられるかもしれません。

現在は主に地方では「一次産業」の農業だけを担っている場合が多いのですが、それに加え「二次産業」の製造・加工、「三次産業」のサービスとすべてを地方で行い、「1次×2次×3次=6次産業」で付加価値を付け、地域に雇用を産もうという考え方です。

私達もその実践を心がけ、「お客様と地域に潤いを！」と日々努力しているところです。

この数式を、各都道府県別に当てはめてみると、より分かりやすいのでは？と最近お会いした方に教えて頂きました。（数字では測れないことですし、流通が進んだ現在で、都道府県別に考えるのは意味がないかも知れませんが。）

地元和歌山県の場合は、農業が盛んですが、その農産物を加工したり、販売したりするノウハウには、弱い部分があります。

現状和歌山県=80点（1次産業）×30点（2次産業）×20点（3次産業）=48,000点くらいかなと、勝手に想像しております。

これが首都東京になりますと、

東京都=10点（1次産業）×90点（2次産業）×90点（3次産業）=81,000点くらいかなと、これも勝手に想像しております。

もし仮に、和歌山県で地元の農産物を活かした、クオリティの高い加工業、サービス業を行う事が出来れば！

創生和歌山県=80点（1次産業）×60点（2次産業）×60点（3次産業）=288,000点と、飛躍的に高い数字になります。

一次産業の数字を高めるためには、かなりな時間、投資が必要になりますが、一次産業のベースが高ければ、あとは加工、サービスの勉強と努力あるのみだと思います。

二宮尊徳先生の「農は国の本なり」という言葉が、そのまま当てはまる公式ではないかと思います。

少しずつでもそれぞれの技術を磨き、魅力的な商品づくりをし、地域社会、日本に貢献していきますので、今後ともどうぞ宜しくお願ひ致します。

観音山フルーツガーデン
六代目 児玉芳典



イギリス人も驚く
日本人のぶどう。